

## 3学期が始まりました

3学期が始まりました。卒業式まで、2ヶ月。

短いけれど、次のステップにつながる、大切な学期となります。

本日の始業式では、1年1組 浦上直之さん、2年4組 岩崎結さん、3年3組 竹村慶一郎さんが3学期の抱負を語ってくれました。

### 【1年1組 浦上直之】

私は入学してからたくさんの挑戦をすることができました。総代を務めたり生徒会選挙で立候補するなど、改めて学校全体のことを考えることができたと思います。残念ながら三役には選ばれませんでした。先生からの「生徒会三役でなくても学校のために行動することはできる」という言葉で、私は「生徒会三役じゃないからできない」のではなく、「この学校をよりよくしたいという思いがあればいつだって変えることができる」と気付かされました。

そこで、朝の挨拶運動に自ら参加するなど、その言葉を実行に移すことができました。

また駅伝大会前に怪我をしてしまい、練習でみんなが走っている中、自分だけが走れないことに焦りを感じていました。ですがタイムを測ったり、友達の走りを観察してアドバイスしたりとサポートに徹しました。本番当日は無事走ることができ、今までサポートをしながら見てきた「走り方のポイント」を意識して走り、自己ベストを出すことができました。

野球部でも怪我で練習や試合に参加できませんでしたが声掛けや全体をみることの大切さに改めて気づきました。客観的にチームをみることができた経験を、今後の練習に生かしていきたいです。

これらのことから、どんな時でも自分の置かれた状況や環境でできることをしっかり考え、行動していくことが自分の更なる成長に繋がると考えます。今年も失敗を恐れず、いろいろなことに挑戦して、たくさんの経験を積み、考えを深めることができればと思います。

また、今年四月には新入生も入学して、私たちは先輩になります。私たちが先輩方に憧れたように、新入生にかっこいい背中を見せるために、昨年の出来事や気持ちを忘れず、これからに生かして学校生活も勉強も部活も頑張りたいと思います。

### 【2年4組 岩崎結】

わたしは、毎日3キロ走ったり、バスケの練習をしたり、毎日スケジュールを立てて勉強したりするのが習慣化され、去年の私より充実した日々を送ることができました。そこで、このような取り組みを始めた理由を、2学期の反省とこれからの目標とともに、個人の面と集団の面から話したいと思います。

個人面の一つ目としては、2学期はよく体調を崩してしまいました。その結果、保健室によく行くようになっていたり、休むことが多くなってしまいました。体調を崩す理由を考えてみると、生活習慣のリズムが崩れていたなど感じました。そのため、3学期は運動や健康などを気をつけていきたいと思い、冬休みから毎日3キロ走っているところです。

個人面の二つ目は、勉強です。わたしは計画を立てて勉強するのが苦手です。そのため、テスト期間では計画的に勉強するのに苦戦しました。わたしは、3月にホームステイに行く予定です。そのために、英語の勉強などをしなくてはいけないと思います。あと3ヶ月しかないため、計画的に効率的に勉強する必要があります。また、充実したホームステイにするためにも計画性は大事だと思い、冬休みは計画的に課題に取り組むところから始めました。

最後に集団の面では、時間を見るということに気をつけていきたいです。なぜなら、2学期は昼休みの時間を長く取りすぎてしまい、5時間目の授業に間に合わなかったことが多々あったからです。学年集会が開かれ、その時の先生方のお話で感銘を受け、時間は大切だなと改めて感じました。この問題は、個人だけでなく2年生全員で改善すべきことなので、まずは私から自発的に動いていきたいです。そのため、冬休みはまずは行動するというところに重きを置き、走ったり、計画的な課題学習に取り組んでみました。

3学期が終わったら、私たち2年生は最上級生になります。最上級生として

恥ずかしくないように、先輩方の伝統を引き継ぎつつ、今掲げた目標や冬休みからの行動を大切に生活していきたいと思えます。ご清聴、ありがとうございました。

### 【3年4組 竹村慶一朗】

受験、卒業、そして将来。今までの生活ではずっと遠くにあったものが、中学校最後の学期を迎える今、一気に近くへ迫ってきました。

入学からの約2年半を振り返ると、私たちの生活は驚くほど数々の成長で溢れていると感じます。その中でも、長い期間を通して特に大きかった変化は、「ゴールを見据える力」、主に議論での立ち回り方の向上です。

1年生の頃は、まず日々の全体像を捉えるのに必死で、目指すべき方向が明確ではありませんでした。クラス内の議論でも、受動的になって何となく流されたり、一部の点のみに執着した口論で進行が停滞したりして、それにより議論のゴールがぼやけてしまい上手いかないということが多かったように思えます。でも今は、学年全体で徐々に心持ちが変わっていき、生徒自身がその場をゴールへ向かわせるための的確な対応を模索し行動できるまでになっています。2学期には全校国語などで議論をする機会が多かったですが、ただの意見交換にはとどまらず、他者への同意や反論による利点・欠点の明確化、また議論全体の統括を自ら行ってくれる生徒がかなり増えてきました。

私が活動する学習リーダー会でも、このような議論にさまざまな面から関与しており、自分と学年全体の両方で進歩を感じています。まさに、3年生としての心構えが最も表れている出来事だと思います。

そんな「ゴールを見据える力」ですが、これは他の様々な事例で活用できるはずで。例えば、直近の終業式では、いくつかの場面で顕著な気の緩みが見られました。その他にも、登下校で発生したトラブルについての情報もたびたび耳にします。このような一つ一つの物事にも、「真剣な態度で厳粛な式典を行う」「近所の人との関わりを大切に保つ」といった目指すべきゴールがあります。

今、このゴールがあやふやになっていて、注意されれば何となくこなすだけのその場しのぎの意識になっているのではないのでしょうか。せっかく議論で身につけた力です。ゴールを再確認し、そこへ向かう方法を模索することが現状の打破に繋がるのだと考えます。

しかし、この大事な3学期、そんなことは言っていられないと思うのも仕方がないかもしれません。冒頭にも触れたように、ただでさえ最高学年としての振る舞いを要求される私たち3年生には、受験や卒業などの出来事が次々と待

ち構えています。目が回るような繁忙な日々で、中身の伴わない時間だけがどんどん過ぎていく感覚にとられそうになりますが、その一瞬一瞬が非常に重要です。この最後のタイミングで、自分がどれだけ成長できるかが一番大切だと感じています。

これまでも成長してきた点は数え切れないほどあります。先を目指すのをやめて、その勢いを絶つわけには行きません。自分の人生のゴールがぼやけてしまわないよう、理想像をしっかりと持ち続け、今を全力で生きたいと思えます。

## 始業式で校長から話した内容（要約）

新年明けましておめでとうございます。

代表挨拶、立派でした。最後の学期にこの学年をどう締めくくることが、皆さんの次のステップに大きな影響を与えます。

私は、この冬休み、司馬遼太郎さんの「坂の上の雲」にはまりました。私がこの作品にはまるのは、描かれている明治時代の日本人の「高い志」と、根底に流れる武士道精神「惻隱の情」に惹かれているからだと思っています。今日は、3学期冒頭にあたり、「高い志」と「惻隱の情」について話します。

「志」と「夢」。この二つは似ているように感じますが、少し違います。

夢は「なりたい自分を思い描くこと」、**志は「そのために何をするかを決めて、信念を持って行動すること」**。**大切なことは、行動に移すこと**です。「志高く」は私の座右の銘でもあります。

「惻隱の情」は、武士道の最高の徳目とされています。**思いやりの気持ちを表し、利害の対立を超えたところに新たな成長がある**という心持ちです。

志を高く持ち、自分自身の目標に向かって行動を続けること。そして、惻隱の情として周囲の人々に対して思いやりの心を持ち、その気持ちを行動に移せること。この二つは、どちらも人として成長するために欠かせないものです。

皆さんが高い志を抱き、惻隱の情を持って他者に接することで、**学校全体が温かく、だれしものが成長できる場**になることを願っています。

みなさんと先生たちとが一体となり、温かい学校を作り上げていきましょう。